



アスチカとびっくす

2018年9月29日発行 発行元 ひろしま避難者の会「アスチカ」

アスチカ = 「明日へすすむ力」。
東日本大震災・原発事故の影響により広島へ来た
避難者が、避難生活を落ち着かせ次のステップに
踏み出すことをサポートする当事者団体です。

〒733-0003 広島市西区三篠町2丁目15-5 tel: 082-962-8124 fax: 082-962-8125

URL: hirosimahinanshanokai-asuchika.com email: hirosima.hinan@gmail.com

西日本豪雨災害 小口支援物資

お届け報告

福島県富岡町立富岡第二小学校の児童の皆さんからの西日本豪雨災害の支援物資のお届けをお手伝いさせていただきました。子どもたちの思いを受け取りたいと、矢野南小学校の皆さんに受け取っていただき、そこから広島市安芸区矢野地区の必要とされる施設やご家庭にわたっていきました。

富岡第二小学校に物資をお預かりする事前のご挨拶。先生方や児童の皆さんにもお会いしました。



←本棚 ↑石油ファンヒーター

児童の皆さんがなぜこの物資を選んだのか、一つ一つ思いを聞かせていただきました。



配送は、カリッソー株式会社様のご厚意でした。

事前に、矢野南小6年生の皆さんに、福島のことや富岡第二小学校のことをお伝えしました。



物資が届いた当日は矢野南小6年生の皆さんがお出迎え。

トラックの運転士さんが預かってきた富岡二小の皆さんからのお手紙を手渡されました。そのお手紙は今、矢野南小に掲示されています。



アスチカと矢野南のご縁は青少協のHさんやKさんたちのご縁から始まりました。



物資は小学校から安芸区福祉センターへ移動し、それぞれ必要とされる場所へ。



矢野南小6年生のお返事の手紙を校長先生からお預かりしました。富岡二小へ届けます。



9月24日（月・祝）に、アスチカの西日本豪雨災害小口支援物資窓口でお預かりした物資を、広島市安芸区瀬野の「落合・塚地ふれあいサロンの会」にお届けしました。「ふれあいサロン」は高齢者が集う場として地域ですっと開催されていたサロンでしたが、豪雨災害の被害により2か月間中止になり、この度2か月ぶりに開催されたそうです。代表・三浦のサロンのレポートと、地元を支えるために精力的に動かれているFさんからの今回の物資お届けへのメッセージをご紹介します。

2018.9.24「ふれあいサロン」(落合会館)

アスチカ 三浦

被災したあの日から数日間、そして西日本豪雨災害から2ヶ月を経過しての今の状況を数名の方がお話されました。また避難所になった福祉センターの方のお話もあり、地域での課題なども話されました。

会場は裏に瀬野川。架かっていた塚地橋が無くなってしまった川沿いにありました。災害のあと会の役員の方々が会館をまず綺麗にされて、サロンの再開を実現されました。

同じ地域でそれぞれの被災がありました。このサロンの会に繋いでくださったFさんも今回、被災されたお一人。東日本大震災から東北やアスチカに寄り添ってくださいました。Fさんに紹介していただき、私もアスチカに届いた物資についてお気持ちを形にして寄せてくださった多くの方々がいることをお伝えしてきました。大変喜んでいただきました。最後までご一緒し、大変貴重な時間を過ごせました。皆さんとのお写真は、この再開したサロンの記念の一枚となったのではないのでしょうか。

繋いでくださったFさんから大変な中、メッセージをいただきました。今日よりも明日へ！日々を地域で支えあいながら過ごされている皆さんの声を聞いて、私も元気をもった日になりました。ありがとうございました。



Fさんからのメッセージ

瀬野地区落合・塚地は支流の榎山川が氾濫し、瀬野川に架かる生活に必要な塚地橋が流されて、新しい橋は三年先になるといわれています。そんな被害の中、みんなが集まれる小さな落合会館は無事でした。本当はまだまだ「ふれあいサロン」(※)を再開するような状況ではないのですが、それでもとにかくみんなで集まることになりました。

アスチカの「たねまく広場」に全国から届いていた物資でみんなを励まして欲しいと願いました。三浦代表がふれあいサロンへ届けてくださり、ご自身の体験を話して瀬野の被災者に寄り添っていただきました。助かった感謝と豪雨災害の記憶での不安が入り混じるわたしたちの心はあたたかくなり、思いが染みしました。離れた地から送られた物資の思いに励まされ、涙しました。

次回のふれあいサロンの計画が盛り上がり、みんな笑顔になっていました。心からありがとうございます。

